

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意
祛湿剂 清熱祛湿剂 13		
<p>さんもつおうごんとう 三物黄芩湯</p>	<p>滋陰涼血・清熱燥湿・殺虫止痒</p>	<p>黄芩 3g・苦参 6g・生地黄 12g 水煎し服用する。</p>
<p>金匱要略</p>	<p>主治は、産後陰血不足の湿熱下注。 産後の陰血不足に乗じて風湿が侵入し、化熱して湿熱に変化し、発熱、四肢の煩熱、四肢がだるく重い、尿が濃く少ないなどを呈する状態に用いる。 湿熱化湿の黄芩・苦参で湿熱を除き、涼血滋陰の生地黄で陰血を滋補し血熱を除く。なお、湿熱が三焦に留滞して往来寒熱、頭痛などを呈しているときは、小柴胡湯で透解する。邪が三焦の偏裏、あるいは下焦に侵入した場合には、本方（三物黄芩湯）で清裏、下滲する。 婦人の産後に限らず、陰血不足の湿熱に広く応用するとよい。また、苦参は殺虫（トリコモナス、白癬など）、止痒効果をもつので下焦の湿熱による虫痒に用いてもよい。 この他、陰虚内熱に対する滋陰清熱の処方として用いることもある。 日本での保険適応効能、効果 手足のほてり</p>	